近年，玩具メーカーが関連するM&Aが活発化し業界が再編されつつある．2004年には，セガがパチスロメーカーのサミーと経営統合し，2005年8月にはスクエア・エニックスによるタイトーの買収が発表された．パンダイもナムコとの経営統合を発表している．玩具メーカーにとって，主体的な経営をしていくには，M&Aによる積極的な経営戦略か被買収による事業継続かを選択する岐路に立たされているといえる．1997年に大幅な赤字を計上し，経営危機に直面したバンダイが2000年にはV字国復を果たし，以降も順調に業績を伸ばしているが，それには業績回復に至る過程において積極的なM&Aによる本業強化が大きく貢献していると考えられる．ナムコとの統合は規模拡大や新規参入市場，スキルギャップ解消に，そのメリットを見出している．玩具・ゲーム業界での規模拡大，未開拓地域への新規参入，ゲーム制作ノウハウのスキルギャップの解消を目的とし成功を収めている．